

2月院内集会：渡部千恵子/NPO＜大熊町ふるさと応援隊＞代表

2月の院内集会は、東京電力福島第一原発のある大熊町の被災者/復興支援活動を行っているNPO＜大熊町ふるさと応援隊＞代表の渡部千恵子さんに、三春町から遠路お越しいただき、「ふるさとを応援する」ことにつきお話しいただきました。

2011/3/11の東日本大震災/原発事故をどこでどのように被災したかということから話なされましたが、震災の日、体育館での避難生活のことなどは「双葉郡未来会議」(注)の活動記録(2018年8月1日、<https://futabafuture.com/2018/08/01/voice030/>)に渡部さんの言葉で克明に記されています。ご参照下さい。

渡部さんが、特に力を込め思いを込めてお話しになったのは、以下のようなことでした。

・避難所では、町の職員などが主になって掃除などを行っていたが、「自分たちもやりますから」という町民の声があがり、自主ボランティア組織がたちあがった。掃除や調理、お年寄りへの声掛け、入浴介助など得意の分野で活動した。

日々の反省のなかから、雑然としていた避難所内に通路を確保したり、お手玉作りをして会話をしたり、「自分も何か役に立っている」という思いが避難生活の励みになった。

・事故からしばらくして5年半ばかり一時帰宅をすることになった。同行したおじいちゃんが避難先に持ち帰る荷物をまとめたあと草むしりをしているのを見て、胸が詰まる思いがした。帰れるものならすぐにでも帰りたいという思いが感じられた。

・役場を定年となってから、一次避難の際ご縁があった田村市でボランティア活動をしたり、学習会に参加し、2014年9月に＜ふるさと応援隊＞を立ち上げた。活動内容は、町内の案内や語り部、『ふるさと通信』の発行など。町民向けにワークショップを開いて、どんな大熊町だったら戻りたいか、理想の町づくりはどんなのかっていうのをどんどん出してもらって、夢の話でもいいから、それを形にして絵に描いて、町との話し合いを持ちそれで住民の声を町に届けて結果を『ふるさと通信』にまとめて発行してきた。

・私の家は「中間貯蔵地内」30年は戻れない所。生きてるうちには戻れないかもしれない。その場所が根こそぎ掘り返され、除染されてきた廃棄物を保管する場所、分別する場所、貯蔵する場所、「燃えるもの」を償却する施設は24時間稼働している。自然がとことん破壊されている。

質疑

問：＜福島原發行動隊＞として福島復興を支援するためにできるのはどんなことだろうか？

答：帰還困難区域に家を残している人たちの中には、戻りたいという意欲があってもあまりにはびこってしまった雑草をみて、帰還をあきらめてしまう人もいる。自力で作業している人もいるが、できない人たちのため行動隊の方たちに先日大熊町の帰還困難区域に入って草刈り作業をしていただいた。そうしたことが、被災/避難者たちにとっては大きな励み

になる。また、実際現場にきて作業することでも、被災地の状況について常に關心を持っていただくことが被災者の私たちには力になる。

問：国/国会議員に望むのはどんなことか？

答：大震災/原発事故当時は民主党政権だったが、「汚染地域を全てきれいにする」と公約していた。政権が変わったいま「復興再生拠点」などと言う言葉が出てきているが、「拠点」でないところは除染も行われぬ。それ以外には計画もない。わたしたちからすれば、「オリンピックなんかやってる場合じゃない！」。政権が変わっても約束を守り、全てのところをきれいにしたい。また、自己責任で帰還する意欲がある人は帰れるようにしたい。

問：大熊町の帰還予定区域に帰還を希望する被災者が安全を判断するのに役立つように、線量を測定してマップを作りを行うため<じじい部隊>など地元の方々と協働する可能性はあるか？

答：福島原発行動隊が線量測定に寄与してもらえるようならありがたい。町でも測定はしているが、自分の家の測定をしてほしいという細かい要望も可能になると思う。

問：東京電力は、廃炉作業の進展状況などの資料を逐次原子力規制庁や福島県庁などに送っていると思うが、渡部さんなどには送られてくるか？

答：個人には来ないが各種の広報誌や進捗状況を知らせる施設が大熊町内や、隣の富岡町にある

注 双葉郡未来会議(<https://futabafuture.com/>)

東電福島原発直近の大熊町、双葉町など双葉郡内 8 町村の住民が「お互いをよく知り、共に地域の未来を考えるための“寄り合い”」として 2015.7.7 第一回ミーティングを開いて立ち上げられた民間組織。

事務局

〒979-1111 福島県双葉郡富岡町小浜中央 295

Tel 0240-23-6612 / Fax 0240-23-6613

<写真に付すキャプション>

- ・避難生活以来の写真を次々に示しながら講演する渡部さん
- ・ストレスの多い体育館での避難所暮らしの中でまとめた 5 項目の「自主ボランティアの日々の反省から」

